

しい音色を奏でてくれます。ゼンマイ式は、戦後電気蓄音機によってかわられました。

火鉢 暖房用具の一つで、平安時代は火桶、火櫃といわれていました。はじめは土製で、外側を白木の曲物でかこったものなどが使われ、火はいろりのおきを利用していたようです。のち木炭を利用するようになってから、火鉢は庶民に広く普及し出しました。用材として桧、杉、桐、樺などが使われますが、陶製や金属製の素材もあり、さらに形状も角火鉢、丸火鉢、長火鉢など多様なものが登場し、工芸的に美しいものもみられます。

【教育】

版画・旧制山形高等学校「雪景」 旧制高校は旧制度下のエリートへの第一歩となる憧憬の的で、山形高校は東北の三高校の一つとして本県の学問文化の象徴でした。現在の山形大学人文学部の前身ですが、その校舎は既にあります。この版画は真室川町出身で東京都日本伝統木版彫刻無形文化財、中川木鈴の創作版画「旧制高等学校三十八校」の一つです。全国の旧制高校の姿を作品に遺す手始めにまず郷里山形からと取組んだものです。全国でも旧制高校の校舎はほとんどなくなり、作者も業半ばに没したため、他には仙台二高、熊本五高の面影が遺るのみです。



昭和十年代の学級文集 昨年、大正・昭和期の本県の小学生の文集が復刻されました。日本の作文教育の一時代を画した北方性教育の跡づけですが、これらはその際探しだされた当時の学級文集です。その中に赤い「マル特」のしるし付きのものがあります。生活記録的作文教育が危険視されていた当時、思想管理機関の特高に押収された名残りです。教育と時代の関係を物語る稀有の教育資料です。

主な展示資料

資料名	点数	備考
銅・鉛・亜鉛鉢	1	多田慎次氏寄贈
リング鉢	1	多田慎次氏寄贈
ピスマス鉢	1	多田慎次氏寄贈
銅鉢	1	多田慎次氏寄贈
カオリン	1	多田慎次氏寄贈
かつ鉄鉢 他	22	多田慎次氏寄贈
メノウ	15	松田富士雄氏寄贈
輝緑凝灰岩	1	中山 啓氏寄贈
海緑石	1	本田康夫氏寄贈
隕石	1	
月布石（ノジュール）	2	
砂漠のバラ（石コウ）	1	
ヒロハノマンテマ	1	鈴木 暁氏寄贈
コマガタケスグリ 他	2	石山美恵子氏寄贈
ムヨウラン 他	4	加藤信英氏寄贈
ゴウダソウ 他	6	斎藤 清氏寄贈
ゼニバアオイ 他	13	小形利吉氏寄贈
スズメノエンドウ 他	3	大谷正実氏寄贈
メイガ科標本（116種）	1600	木俣 繁氏寄贈
山形縣新築之圖	1	
眼鏡橋之眞景	1	
羽黒山奉納算題起元	4	
蓄音機	1	東海林まさ氏寄贈
レコード	28	東海林まさ氏寄贈
陶製丸火鉢	1	田中中和子氏寄贈
陶製角火鉢	1	田中中和子氏寄贈
陶製丸火鉢	1	佐藤豊彦氏寄贈
陶製角火鉢	2	佐藤豊彦氏寄贈
ハエ取り器	2	佐藤豊彦氏寄贈
天神木像	1	
明治十年代の卒業証書	16	溝口謙三氏寄贈
絵はがき「山形高等小学校」	2	中村新三氏寄贈
明治期卒業証書	1	鈴木秀雄氏寄贈
版画・旧制山高「雪景」	1	新田小太郎氏寄贈
昭和十年代学級文集	3	田中新治氏寄贈

平成4年度

新収蔵品展

1993

2月13日(土)～4月11日(日)

山形県立博物館

開催にあたって

この企画展は、博物館の収集・整理活動のまとめとして毎年開催しているもので、この度は平成4年度中に新しく収蔵した資料や、整理の終わった資料の中から、県民のみならずにとって興味深い、貴重な資料を選んで展示するものです。

本展を開催するにあたり、資料をご寄贈くださった方々や、収集活動にご協力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

展示解説

【地学】

ブレインビュー隕石 (コンドライト) アメリカテキサス州のブレインビューに1917年に落下した隕石で、地名からその名がついています。標本はその破片の一部で約200gのものですが、他に見つかっているものの合計などから推定すると、全体では数百kgに達すると推定されます。隕石の種類は、鉄分の少ない石質隕石の一種で、コンドライトと呼ばれているものです。コンドライトは、最も普通の隕石で、全落下隕石の約8割がこのタイプです。



山形県の鉱石 山形県の金属鉱山は現在すべて閉山していますが、かつては大小100以上ありました。鉱床が形成された時代は、山形が海底にあって、海底火山が活発に起こっていた新第三紀中新世(約2400~500万年前)です。鉱床のでき方は、地下に浸透した海水がマグマから金属成分を溶かし、上昇して岩石の割れ目に鉱脈を作ったタイプ(鉱脈鉱床)が大部分ですが、熱水が海底に噴き出して層状に堆積してきたタイプ(黒鉱鉱床)もあります。鉱石は、銅・鉛・亜鉛鉱が主体で、金や銀も少量含まれます。

【植物】

今年度寄贈されたおしば標本から 毎年、今年新しく山形県内で発見した植物、新しい産地が見つかった植物、身近で見つけた帰化植物など数多くの「おしば」標本が博物館に寄せられます。そのほとんどは、「やまがたのおしば」展で紹介していますが、展示スペースの関係で展示できなかった物や、トピック的なものをここで紹介しました。

- アザミの雑種 2種類
(新雑種なので、名前をつけてもらうために鑑定依頼中)
- ムヨウラン 2種
(最近発見された野生ランの種類)
- 身のまわりにもこんなに帰化植物が
(ヒロハノマンテマ, ゼニバアオイなど10種)
- 比べてみましょう
(スズメノエンドウ, カスマグサ, カラスノエンドウ)
など

【動物】

蛾類標本 県内に生息するメイガ科に属する蛾の標本で、本館の囀託・木俣繁氏より寄贈を受けたものです。山麓地帯から山地にかけて普通に見られる種類で、山形県総合学術調査や山形市の自然環境調査、その他の調査などの際に採集された標本を中心に、116種1600点にのぼります。このうち、特に珍しいものではありませんが、いままで本館に標本のなかったマダライメガ亜科の標本が17種含まれています。メイガ科にはニカメイガやコブノメイガなどのような農業上の害虫がいるため、その方面での研究が進んでいますが、分類学的な方面の研究は遅れており、まだまだ未知の種類がいると考えられています。

県内各地から広く採集されており、県内のメイガ科の蛾類の分布を調べる上で貴重な標本です。これまで、本館のメイガ科の標本は40数種類にすぎませんでしたが、この度寄贈を受けたことにより、種類数及び個体数が大幅に増えることになります。なお、県内にはメイガ科の蛾は 300種近くいるところから今後の調査が待たれます。



【歴史】

山形縣新築之圖 初代県令三島通庸によって面目を一新した山形市街を描いた大版三枚組の風景版画で、版画工は東京の長谷川竹葉、明治14年山形市の五十嵐太右エ門(現八文字屋)から発行されました。県庁・師範学校・警察署・博物館・済生館などの西洋建築物を、輸入染料独特の刺激的な色調で表現した明治絵(開化錦絵)の代表的なものの一つです。



眼鏡橋之眞景 『山形縣新築之圖』と共に発行された風景版画で、眼鏡橋とは羽州街道山形~上山間の坂巻に架設された須川の常盤橋のことです。県令三島通庸が、6年間の在任中に行った65の架橋工事の一つで石造橋でした。長さ58メートル、五つのアーチを持つ構造から眼鏡橋とも呼ばれました。

羽黒山奉納算題起元 文政6年最上流の和算家齋藤尚仲(山形七日町出身で最上流創始者会田安明の高弟)の門人たちが羽黒山に算額を奉納しました。この算額の内容や22の問題作成の過程を推量できる諸本が伝えられていますが、この4冊本もその一つです。明治16年、齋藤が書写したものです。

【民俗】

蓄音機 1887年にエジソンが開発したとされるレコード音声再生機です。日本では明治32年(1899)に蓄音機専門店が浅草に開業したという記録がありますから、蓄音機は明治時代後半に普及し出したといえます。古くはゼンマイ式で、側面にあるハンドルを手回してバネの力を利用してレコード盤を回転させるしくみでした。展示資料は国産のもので昭和15年に45円で購入したということです。保存がいきとどいており、今でも立派に作動して懐か